



33 回目の同窓会「写専会」が母校で開かれた。  
学校創立 60 周年の記念すべき同窓会に  
第一期卒業生、第二期卒業生から今年の卒業生までが大集合。  
同級生の顔が揃うと、みんなが学生に戻る。  
人の出会いは感動を生む。それが学校。  
最高に暖かい冬の夜でした。

UP! SPECIAL HAPPY is FAMILY vol.33

UP! SPECIAL  
HAPPY is  
FAMILY



岡村さんの司会はカミカミ。  
息子の方がうまいぞの声が飛ぶ (笑)

写専会役員を務める岡村さんが懇親会の司会進行役。カメラマンですから本物のようなスムーズな司会は出来るハズもない。詰まったり、読み上げる名前を間違ったりと散々。それでも誠意ある話し方には好感度大でした。ご苦労様でした。

2017年2月18日学校創立60周年記念同窓会「写専会」が開かれた。教室に入りきれないほどの参加者の数。いままでに1万人以上の卒業生を輩出した写真・映像業界では有名な専門学校である。

沖縄から参加の大塚勝久氏は「今日あるのは写専のお陰です。現在はサガリバナという石垣島にしか咲かない花を撮っています」こんな情報交換に先輩後輩が耳を傾ける。保田氏は「私は第3期の卒業生です。大阪の文化財を撮っています。写専時代は貧乏学生でしたが、先生がよく食事に誘ってくれました。あの時のうどんの味は格別でした(笑)」。京都からは高田氏が「伊藤先生がお元気なので安心しました。私の方が先に天国に行くかも(笑)」。当日の司会進行役を務めた岡村氏は息子さんの篤志氏共々の参加です。親子、兄弟が写専卒というのも「写専」の強く温かいところですね。

今回の写専会開催に各方面からいろんな電報、メールをたくさんいただきました。「足が痛くて参加できません」「退院したてなので、行きたいのですが無理みたいです。みなさんによくお伝え下さい」など。多くの人が母校のことを気にかけてくれているんですね。

60年の歴史には様々なドラマがある。それぞれのドラマは写専での出会いからスタートしたのです。親子で出席した赤澤写専会会長は「純粋な心に戻る場所が母校。いつまでも大切にしたい」と挨拶をした。阿倍野の校舎から住之江の校舎に移り、そして現在の東住吉に移って10年が経つ。場所は変われど「写専」の空気は不変。思い出話は尽きない。

楽しい時間はすぐに過ぎ、懇親会を終えて校舎の外に出ると冬の風が吹いていた。コートの手を立てる。襟の中にまたひとつ増えた思い出を偲ばせて(は)